

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 第1ユニット		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kami-tru&E_gyosyoCd=2172400273-00&ServI.ceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム垂井だいわ福寿の社は、南北に県道215号垂井養老線が通っている県道より栗原地区の集落側に入った所にあります。近くには、伊吹山・美濃一の宮の南宮大社があり自然豊かな中で、平成18年3月に開設しました。2ユニット(RC2階建)18名の入居者様が生活を送っていらっしゃいます。認知症対応型通所介護【グループホーム共用型】と認知症対応型共同生活介護【空き利用】ショートステイも行っています。職員は、【管理者(介護福祉士)、ケアマネ2名(介護福祉士)、事務、看護師】計17名です。『施設の運営方針・理念』として 1、お互い手と手の温もりで支え合ひましょう。2、笑顔と優しい眼差しで楽しい毎日にしましょう。3、根気よく明るい声を掛け合いましょう。4、ご近所さんと仲良しになりましょう。5、住んでよかったと思えるホームにしましょう。を掲げ、認知症ケアを心掛けています。新型コロナウイルスで外出・面会などが出来ない日々が続いていますが、職員が工夫をして、外部との関わりが出来るように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げている「明るい声で、優しい眼差し」で利用者を支え、「住んで良かったホーム」と思える生活を支援している。外部との交流は限定しているが、オンラインの活用、行事やレクリエーションを工夫し、豊かな暮らしとなるように努めている。外部講師を招いた音楽療法、見本と花材を準備してもらい生け花講座、毛糸や様々な素材を活用した作品作り、オンラインのゲーム・体操・ツアー等で楽しんでいる。利用者と一緒に洗面所掃除、床のモップかけ、イスや手すりの消毒、洗濯物干しや畳み、炊事手伝い等で身体機能の維持に繋げている。利用者の作品に様々な賞を贈り、生きがいと共に生きる力にも繋げている。職員の抗原検査を週1回は実施し、感染症予防に努めている。利用者職員が温かな雰囲気ですえ合っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し、地域に溶け込み実践に繋げるよう日々努力している。	業務中でも理念が目につき、実践できるように玄関やフロアに大きく書いて掲示している。名刺サイズの用紙に印刷した理念をカードケースに入れて所持し、意識化できるようにしている。理念の確認や振り返りがされていない。	フロア会議で管理者が理念で謳っている「明るい声」「優しい眼差し」等について話しているが、職員で理念が共有できるような話し合いが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店へ買い物に出かけたり、地域の文化祭、運動会に地域から招待状をもらい参加している。今年のホーム夏祭りは、新型コロナウイルスの為、開催出来なかった。出来る範囲で地域との交流をしている。	天気や職員体制に合わせて散歩に行き住民と会話、畑仕事の人とベンチに腰掛け談話、小学校の運動会で玉入れに参加、地域の文化祭に利用者の作品を出展する等、住民とのつながりが増えるように努めている。町の文芸展にも出展予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栗原地区が、SDGsに登録され、協力要請があり、出来る範囲で協力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等を報告し、助言やアドバイスを頂いている。職員にも報告しサービス向上に活かしている。地域代表として近所の理容院・社会福祉協議会・地域包括支援センターの方にもほぼ参加して頂いている。	コロナのクラスター発生時は職員のみで開催し報告のみとなったが、隔月で開催時はメンバーから意見や助言をもらっている。町内の同業者や近隣の理髪店も参加してもらい、視点を変えた意見や専門職からは、ヒヤリハットの様式の助言を得て取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回以上、役場に行き情報交換をしている。2ヶ月に1回の運営推進会議にも毎回参加して頂いている。行政職員等が、参加できないときは、議事録及び会議の添付資料を役場へ提出している。	電話やメールで連絡する事も多いが、書類提出時は担当者に実情を伝えている。町主催のケア会議、連絡会、多職種情報交換会等で、相談や情報交換をしている。コロナ関連予防物品や水道蛇口のセンサー化、空気清浄機の購入等の助成を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化対策検討委員会を運営推進会議を活用して年4回開催している。又、フロア一会議での検討もおこなっている。スピーチロックに、取り組んでいる。	身体的拘束等適正化のための指針を定め、運営推進会議で兼ねた委員会を開催している。虐待の芽チェック表でチェックリストを集計し、不適切ケアやスピーチロックについて毎月勉強会をしている。外部の身体拘束研修の直接参加やウェブ研修時の資料を、職員に閲覧し周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア一会議で、新聞の記事など取り上げ、意見交換して、虐待が見過ごされていないか注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう取り組んでいる。	職員には、権利擁護推進養成研修終了者がいる。参加した者は、研修報告を提出し、全職員に熟知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得頂けるまで、説明を行う。改定等がある場合は、なるべく早く書面にて連絡する。又、家族会の時に説明してご理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、管理者または外部機関に話せる事を伝え、契約書にも、外部機関連絡先が掲示してある。玄関にポスターを掲示してわかりやすくしてある。相談箱の設置もしてある。	玄関又はガラス戸越しの面会時、電話、メールやライン等で意見や要望を聞いている。行事や日頃の様子がわかる写真を多く掲載し、隔月の通信や毎月の個人会報を送付し、意見を聞きやすくしている。屋外への連れだし、花が好きだから興味持たせて等を聞き反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議に報告し検討している。	毎朝の申し送りや毎月のフロア会議で出た意見は、その場で話し合ったり、会議で検討している。レクリエーションの材料購入、洗濯物干し場の設置、LED電灯の交換等の意見を取り入れた。体調や家庭事情に合わせたシフト体制とし、有給休暇取得への配慮や資格取得時は手当を支給している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定している。介護職員等処遇改善加算Ⅰを職員の勤務状況に応じて支給し、介護職員等特定処遇改善加算Ⅱも対象者に支給している。令和4年2月より介護職員処遇改善支援補助金も支給し令和4年10月より介護職員ベースアップ等支援加算も支給している。体調に合わせて勤務を変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強したい研修に参加する機会を確保するようにしている。職員の体調や家族の状態を考えながら勤務を組んでいる。研修に関しては新型コロナウイルスの為、重要と思われる研修には、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会へ加盟している。垂井町内の他のグループホームの運営推進会議にも参加したり又、来て頂いたり交流の機会をもっている。研修に参加した時は、他の施設と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り、不安なこと・求めていること等を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。家族の意見をケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるように努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加してもらい、できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人会報にて1ヶ月の様子をお知らせし、又、家族会・家族旅行や面会時に家族との良い関係を築いてもらえるようにしている。日帰り旅行のとき、家族も参加して頂けるようにしている。ホームのLINEを活用していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が、面会に来苑されたとき、馴染みの場所を聴き、行ける範囲で出かけている。友達など面会に来て頂き居室でゆっくり過ごして頂いている。新型コロナウイルスの為、現在は、出ていないが今後出来る範囲で再開したい。	携帯電話は充電や操作確認、電話の取り次ぎ、手紙・絵手紙や年賀状の住所や宛名確認、懐かしい人との思い出話をする等の支援をしている。馴染みがある町内の仕出し弁当や草餅を購入したり、自宅周辺をドライブしたりして関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、利用者同士が交流できる空間を作っている。利用者同士の性格をレクリエーション等で、見極め利用者個々の印象が良くなるように努めている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談や支援ができるように本人家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切にして本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは、家族と話し合い家族の協力も依頼している。職員同士も意見交換し、本人の意向に沿う様に努力している。	日々の暮らしのなかで本人に寄り添い、ゆっくりと思いや意向を聞いている。入浴時や居室で周囲を気にせず、1対1で聞く時もある。できる事、やりたい事や興味ある事等を聞き、思いが叶えられるようにしている。困難な人には、家族から聞いたり表情や仕草から推測し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人及び家族からアセスメントを取り把握に努めるが、家族の面会時や本人との会話から情報を集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来る事、得意な事を見つけるように活動時に目を向けて観察している。実行出来るところは、挑戦してもらっている。毎朝、健康チェックを行い、異常がある時は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、月1回のモニタリングで現状を把握し、フロア会議でケース検討を行い意見を出し合っている。それを介護計画に盛り込んでいる。	本人や家族の希望を事前に聞き、医師や看護師の意見も参考に介護計画を作成している。ケアチェック表やケース記録の情報も合わせて、フロア会議で全員の状況確認し、定期的更新は6ヶ月毎であるが、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有化を図りケアプラン作成の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断、本人と家族の状態及び状況を把握して援助している。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による定期公演活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用していたが、新型コロナウイルスの為に中断している。出来る範囲で再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療機関を受診している。	入居時に家族の希望で、24時間連携体制がある協力医に変更する人もいる。かかりつけ医や専門医を家族が受診時は、日頃の様子を記した書面を渡し、受診後に報告を受けている。職員が同行する場合もある。歯科の訪問診療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もフロア会議に参加して、気軽に意見をだし職員・利用者の健康面も支援している。夜間の連絡体制も整備して、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り、情報交換や相談をして連携を取っている。退院の時は、家族・医師・管理者・看護師でカンファレンスを行い、退院後の対応などを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態を小まめに家族に伝え、重度化した時の対応を少しずつ話し合いしている。終末期については、家族・医師・管理者・看護師などと話し合い出来る範囲で取り組んでいる。	入居時に延命治療の意向を確認し、重度化した場合における対応に関わる指針で説明している。状態に合わせて看護師が家族に説明し、話し合いと共に意向を確認している。医師から説明する場合もある。看取りを希望する場合は、看取り指針の説明と同意書を交わし、看取りプランで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的に訓練をしている。AEDを設置し、取扱い講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成し、それに基づき避難訓練を実施、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を実施している。本年は、新型コロナウイルスの為に、地域住民の方には参加を要請していないが、非常時の協力の要請は、お願いしてある。	火災、地震、水害を想定し、連絡網で抜き打ちの職員参集訓練、簡易担架の搬送訓練や階段昇降を利用者も参加し、夜間想定も含めた避難訓練をしている。水、粥、乾パン、ガスコンロ等を備蓄している。災害時の避難場所として住民の受け入れを受託しているが、訓練時に住民の参加が得られていない。	コロナが終息時には、非常時に迅速な対応が得られやすい近隣住民に、協力への働きかけが望まれる。

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。	利用者個々のペースを尊重した誘導や介助に努め、起床や就寝時間も自由に行っている。トイレ誘導時は、耳元で小声にし手招きしたり、トイレの内側ガラスにカーテンで目隠し、プライバシーに配慮している。文化祭出展の作品は、名前を伏せて展示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業や製作材料など何種類かを用意して本人の意思や希望で表現出来るように支援している。本年は、新型コロナウイルスで外出できない為、複数回仕出し弁当を取ったときは、ご利用者様本人でメニューを見て決めて頂いた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望に沿った支援をしている。出来る事や、遣りたい事を見つけ、材料等を準備して何時でも取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の着たい服を選んでもらい、入浴準備をしている。服の購入希望があれば一緒に買物に出かけ購入するように努めている。汚れた衣服等を見つけたら、着替えて頂いている。化粧品を揃え出かける前などは、使用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳や盛り付けなどは、出来ることを職員と一緒にしてもらっている。時々、外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。本年は、新型コロナウイルスで出来ない為、仕出し弁当を取り、本人にメニューを選んでもらった。	希望の献立を聞き、旬の食材や事業所で収穫した野菜を使用し調理している。ワンプレートや弁当風に盛り付け、鍋や焼きそばを出店風、仕出し弁当、寿司や鰻のテイクアウト、おはぎやどら焼き等の手作りおやつ等で楽しみな食事に行っている。下拵え、洗い物、お盆拭き等のできることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって、変更している。食事量・水分量をチェック表に記入して確認している。栄養のバランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診を受診して頂いている。歯の状態を職員が把握し、毎食後の口腔ケアにも活かしている。1ヶ月1回歯科医師によるブラッシングをして頂いている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行う。なるべくおむつの利用を避けるように努力している。	利用者個々の排泄パターンに合わせて、誘導や介助をしている。夜間ポータトイレ使用する人もいるが、夜間もトイレ誘導しトイレ排泄を基本としている。紙パンツやパッドの種類や大きさを検討し、オムツや紙パンツから布パンツになった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分量チェック表などを利用して便秘の原因を探し歩行運動、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬なども取り入れ調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回決まった曜日に入浴して貰っている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でも可能である。本人が希望すればいつでも入浴が出来るように、対応している。	希望のボディソープ、シャンプーや入浴剤を使用している。入浴時間は希望に合わせて、早く出湯する人もいるが、歌を歌ったり話をしたり、お経を読んだりしている。状態に合わせてシャワー浴、足浴や清拭をしている。菖蒲湯や柚湯にしている。ルーレットで順番は決めているが、嫌がる人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣に合わせて、対応している。午前と午後に歩行運動、体操など身体を動かして安眠出来るよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認出来るようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌で、変更の旨を記入し、職員全員把握出来るようにしている。調剤薬局がご利用者個々の薬を服薬棚に配置する事で服薬事故の軽減に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・季節の花の見学などを定期的に行い利用者が参加出来るようにしている。買い物に行ったり、本人希望の手芸や塗り絵が出来るように常に用意して置くようにしている。出来上がった作品を展示して皆さんに見て頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけている。あまり外出希望が少ない方と、長距離を歩くことが、だんだん難しくなっている方がいる。花が好きの方が多く、季節の花を見に行く機会を作っている。車いすを用意して出かけている。新型コロナウイルスでほとんど行けず出来る範囲で再開したい。	戸外に出掛ける機会は少なくなっているが、近隣の散歩や神社に行き、2ヶ月に1回は理髪店又は美容院に出掛けている。季節の鯉のぼり、桜、バラ、彼岸花、防災ダム、紅葉狩り等にドライブ兼ねて行っている。オンラインツアーを利用し伊勢、動物園や花見等も楽しんでいる。	

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいと申し出があれば対応している。手紙も本人から書きたいと申し出があれば支援している。新型コロナウイルスで家族との交流が出来ない為、毎月絵手紙など出すようになった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者全員で、掃除をする。玄関に季節の花を生ける。玄関・Dルーム・畳スペースを利用者がいつでも休めるように工夫してある。Dルームの壁に季節の壁画を利用者と作り飾っている。	玄関やリビングには利用者が作成した壁画や作品を飾っている。庭のプランターで花や季節の野菜を育てている。空気清浄機や加湿器を設置し、常時の換気と日に2回手すりやイス等を消毒している。日刊紙や雑誌を読んだりTVを見たり自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、踊り場など利用者同士でお話をしたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、過去には仏壇、家具など自由に持って来て頂いていた。自分で作った作品を飾っている。	使い慣れた寝具、TV、ラジオ、イス、鏡台、時計等を持ち込み、縫いぐるみ、家族写真や自分の作品等を飾っている。居室の廊下壁面は書、壁画、表彰状やお誕生カードを作品展のように掲示している。お経や週刊誌を読む、塗り絵や縫い物をする、お経を読む等その人らしく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハビリプリントを活かし分かる力を引き出している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 第2ユニット		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2172400273-00&ServicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し、地域に溶け込み実践に繋げるよう日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店へ買い物に出かけたり、地域の文化祭、運動会に地域から招待状をもらい参加している。今年のホーム夏祭りは、新型コロナウイルスの為、開催出来なかった。出来る範囲で地域との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栗原地区が、SDGsに登録され、協力要請があり、出来る範囲で協力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等を報告し、助言やアドバイスを頂いている。職員にも報告しサービス向上に活かしている。地域代表として近所の理容院・社会福祉協議会・地域包括支援センターの方にもほぼ参加して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回以上、役場に行き情報交換をしている。2ヶ月に1回の運営推進会議にも毎回参加して頂いている。行政職員等が、参加できないときは、議事録及び会議の添付資料を役場へ提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化対策検討委員会を運営推進会議を活用して年4回開催している。又、フロアー会議での検討もおこなっている。スピーチロックに、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアー会議で、新聞の記事など取り上げ、意見交換して、虐待が見過ごされていないか注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には、権利擁護推進養成研修終了者がいる。参加した者は、研修報告を提出し、全職員に熟知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得頂けるまで、説明を行う。改定等がある場合は、なるべく早く書面にて連絡する。又、家族会の時に説明してご理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、管理者または外部機関に話せる事を伝え、契約書にも、外部機関連絡先が掲示してある。玄関にポスターを掲示してわかりやすくしてある。相談箱の設置もしてある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議やミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議に報告し検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定している。介護職員等処遇改善加算Ⅰを職員の勤務状況に応じて支給し、介護職員等特定処遇改善加算Ⅱも対象者に支給している。令和4年2月より介護職員処遇改善支援補助金も支給し令和4年10月より介護職員ベースアップ等支援加算も支給している。体調に合わせて勤務を変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強したい研修に参加する機会を確保するようにしている。職員の体調や家族の状態を考えながら勤務を組んでいる。研修に関しては新型コロナウイルスの為、重要と思われる研修には、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会へ加盟している。垂井町内の他のグループホームの運営推進会議にも参加したり又、来て頂いたり交流の機会をもっている。研修に参加した時は、他の施設と情報交換している。		

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り、不安なこと・求めていること等を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。家族の意見をケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるように努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加してもらい、できない部分を職員がサポートしている。満遍なく参加して頂くために表を作り活用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人会報にて1ヶ月の様子をお知らせし、又、家族会・家族旅行や面会時に家族との良い関係を築いてもらえるようにしている。日帰り旅行のとき、家族も参加して頂けるようにしている。ホームのLINEを活用していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が、面会に来苑されたとき、馴染みの場所を聴き、行ける範囲で出かけている。友達など面会に来て頂き居室でゆっくり過ごして頂いている。新型コロナウイルスの為、現在は、来ていないが今後出来る範囲で再開したい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、利用者同士が交流できる空間を作っている。利用者同士の性格をレクリエーション等で、見極め利用者個々の印象が良くなるように努めている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談や支援ができるように本人家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切に本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは、家族と話し合い家族の協力も依頼している。職員同士も意見交換し、本人の意向に沿う様に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人及び家族からアセスメントを取り把握に努めるが、家族の面会時や本人との会話から情報を集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来る事、得意な事を見つけるように活動時に目を向けて観察している。実行出来るところは、挑戦してもらっている。毎朝、健康チェックを行い、異常がある時は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、月1回のモニタリングで現状を把握し、フロア会議でケース検討を行い意見を出し合っている。それを介護計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有化を図りケアプラン作成の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断、本人と家族の状況及び状況を把握して援助している。		

グループホーム垂井だいわ福寿の社

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による定期公演活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用していたが、新型コロナウイルスの為中断している。出来る範囲で再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療機関を受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師もフロアー会議に参加して、気軽に意見を出し職員・利用者の健康面も支援している。夜間の連絡体制も整備して、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り、情報交換や相談をして連携を取っている。退院の時は、家族・医師・管理者・看護師でカンファレンスを行い、退院後の対応などを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態を小まめに家族に伝え、重度化した時の対応を少しずつ話し合いしている。終末期については、家族・医師・管理者・看護師などと話し合い出来る範囲で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的に訓練をしている。AEDを設置し、取扱い講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成し、それに基づき避難訓練を実施、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を実施している。本年は、新型コロナウイルスの為、地域住民の方には参加を要請していないが、非常時の協力の要請は、お願いしてある。		

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業や製作材料など何種類かを用意して本人の意思や希望で表現出来るように支援している。本年は、新型コロナウイルスで外出できない為、複数回仕出し弁当を取ったときは、ご利用者様本人でメニューを見て決めて頂いた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望に沿った支援をしている。出来る事や、遣りたい事を見つけ、材料等を準備して何時でも取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の着たい服を選んでもらい、入浴準備をしている。服の購入希望があれば一緒に買物に出かけ購入するように努めている。汚れた衣服等を見つけたら、着替えて頂いている。化粧品を揃え出かける前などは、使用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳や盛り付けなどは、出来ることを職員と一緒にやってもらっている。時々、外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。本年は、新型コロナウイルスで出来ない為、仕出し弁当を取り、本人にメニューを選んでもらった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって、変更している。食事量・水分量をチェック表に記入して確認している。栄養のバランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診を受診して頂いている。歯の状態を職員が把握し、毎食後の口腔ケアにも活かしている。1ヶ月1回歯科医師によるブラッシングをして頂いている。		

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行う。なるべくおむつの利用を避けるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分量チェック表などを利用して便秘の原因を探し歩行運動、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬なども取り入れ調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回決まった曜日に入浴して貰っている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でも可能である。本人が希望すればいつでも入浴が出来るように、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣に合わせて、対応している。午前と午後に歩行運動、体操など身体を動かして安眠出来るよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認出来るようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌で、変更の旨を記入し、職員全員把握出来るようにしている。調剤薬局がご利用者個々の薬を服薬棚に配置する事で服薬事故の軽減に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・季節の花の見学などを定期的に行い利用者が参加出来るようにしている。買い物に行ったり、本人希望の手芸や塗り絵が出来るように常に用意して置くようにしている。出来上がった作品を展示して皆さんに見て頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけている。あまり外出希望が少ない方と、長距離を歩くことが、だんだん難しくなっている方がいる。花が好きな方が多い為、季節の花を見に行く機会を作っている。車いすを用意して出かけている。新型コロナウイルスの為ドライブで気晴らしに行くことも多くなった。今後再開は、したい。		

グループホーム垂井だいわ福寿の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいと申し出があれば対応している。手紙も本人から書きたいと申し出があれば支援している。新型コロナウイルスで家族との交流が出来ない為、毎月絵手紙など出すようになった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者全員で、掃除をする。踊り場に季節の花を生ける。踊り場・Dルーム・畳スペースを利用者がいつでも休めるように工夫してある。Dルームの壁に季節の壁画を利用者と作り飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、踊り場など利用者同士でお話をしたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、過去には仏壇、家具など自由に持って来て頂いていた。自分で作った作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハビリントを生かし分かる力を引き出している。		